

廃棄木材からアロマ

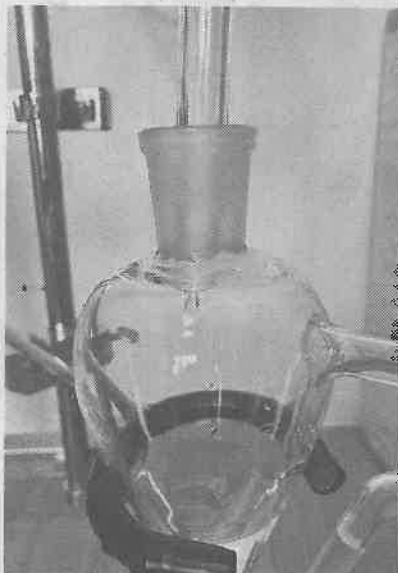
ユキロンドンウィズアロマ

循環型社会への貢献目指す



石川祐規社長

使用する木材は、ビル管理の大成(本社名古屋市中区)が植樹しているキリ。いなべ市で、オフィス家具向けに植樹しており、家具の製造過程で出た端材などを譲



蒸留の様子

り受けた。

香り成分が最も多く含まれる表皮を削り取り、社内の蒸留設備で香りを抽出する。このほど提供を受けた早生桐(そうせいぎり)10kgからは、約2kgの精油を抽出した。

早生桐は、ヒノキなど他の木の香りと比べ、軽やかでさわやかな香りが特徴

の搾りかすなどの提供を受け、香りを抽出してきた。

石川社長は「利用価値がないものを香りとして生まれ変わらせ、社会に戻す循環を作り、SDGsに貢献していきたい」と笑顔を見せる。

同社は2017年設立。従業員数は9人。個人向けに天然アロマを製作する「会員制aromabar(アロマバー)」の運営なども手掛けている。

通りと友好提携を結んでいることから、パリのカフェをイメージしたスイーツを提供する。大府市産の「舞茸」を使ったガトーフレッシュや西尾抹茶のテリーヌシヨコラなど地元食材を使ったスイーツのほか、人気洋菓子店「ピエール・エルメ・パリ」のマカロンとサブレが付く。

90分入れ替え制で①正午②午後2時③午後4時の1日3回(3日正午は満席)。料金は、前売りで中学生以

名古屋市中区の名古屋市

市で、名古屋市中区の名古屋市

agoyaまちカプル戦略」に

解を深めるイベ

goyaまちな

カプルなまちづ

ジウム」を開催

市職員がNa

ちなかウォーカ

ついて説明する

大学大学院創成

の宋俊煥教授を

オーカブルなま

限定メニューの「メ



提供を受けた早生桐

自社設備で精油抽出

「道を切り拓く」テーマに 名商若鯨会が通常総会

異業種の若手経営者らで組織する名古屋商工会議所若鯨会は4月30日、名古屋市中区の名古屋東急ホテルで2024年度の通常総会を開催した。会員約130人が出席した。

来賓あいさつでは、名古屋商工会議所の嶋尾正会頭が登壇。嶋尾会頭は「地域経済の発展には、若い力が

必要不可欠。お互いを高め

ながら、新たな挑戦につながることを期待している」と話した。

通常総会では、23年度の事業報告のほか、年間テーマに「道を切り拓く」を掲げた24年度の事業計画を承認した。山田剛士代表幹事は「会員企業の持続的発展につながるよう、同会の活動で道を切り開いていきたい」と語った。

若鯨会は、若手経営者や後継者の育成を目的とする日本最大級の異業種交流団体。1983年に発足し、会員数は500人超。

梅木 秀雄(うめぎ ひでお) テクノロジ

・エバンジェリス

ト、コンサルティ

ング

を5月11日(土)に

名古屋市中区



あいさつする山田代表幹事

ない。自然言語つまり文章のデータとしての価値が高まっている。企業や地域に固有の問題解決に生成AI

質なのだ。

らないと考えられている。

生成AI活用に必要な企業

独自の言語情報は量よりも

質なのだ。



ナツ専門店

ドドレイク

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

経営羅針盤

令和への挑戦